



耳納風土記⑰ 屋形古墳群～人々の想いと共に歩んだ歴史～

今年度最後の連載では屋形古墳群を紹介します。うきは市は、知る人ぞ知る古墳の密集地帯であることは以前耳納風土記でご紹介しました。今回は数あるうきは市内の古墳群のうちでも、特に有名で見応え抜群の屋形古墳群について、その辿ってきた歴史に着目してお話します。また、屋形古墳群は現在、保存と活用のために整備工事が順次進められており、この整備についても簡単にご紹介します。

●問合せ 生涯学習課文化財保護係 ☎75-3343

まずは屋形古墳群について解説します。屋形古墳群は吉井町富永の耳納連山北麓に下から順に「珍敷塚古墳」、「原古墳」、「鳥船塚古墳」、「古畑古墳」の4基が並ぶ古墳群です。珍敷塚古墳（2020年10月15日号）と鳥船塚古墳（2020年12月15日号）については以前個別に紹介しましたが、いずれも古墳時代後期（6世紀後半）に造られた直径10m～20m程の円墳です。この古墳群の凄いところは、4基全てが装飾古墳だということです。

装飾古墳とは、石室や石棺に、彫刻や彩色によって幾何学文、器材、人物鳥獣文など様々な装飾を施したものです。主に5世紀から7世紀にかけて築造され、全国で700基を超える装飾古墳が確認されています。その分布は九州の北・中部に圧倒的に偏っており、筑後川流域地域は密集地帯の1つで、地方色豊かなユニークな文化といえます。古墳時代の人々は死者の安らかな眠りや死後の旅の無事を願い装飾を描いたのでしょう。芸術家の岡本太郎氏は、九州の装飾古墳の壁画を評して「その土地で、その共同体から自然に、切実に生まれてきた表情だ。それは今日の芸術のポイントから言っても、より根源的な意味と強烈な広がりをもっているのである」と述べています。

この装飾古墳が密集して残されているのが屋形古墳群で、4基とも石室に壁画が描かれており、その主題には船や鳥、武具など具体的な文様が多く描かれています。特に珍敷塚古墳は一枚岩に黄泉の国への旅立ちの物語を想起させる構成になっており、日本原始美術の祖とも称されています。装飾古墳密集地の筑後川地域でも、430mの範囲に4基の装飾

古墳が分布しているのは屋形古墳群のみであり、当時の葬送観念を知る上でも大変貴重なものです。

学術上も貴重な屋形古墳群ですが、辿ってきた運命もまた物語性があって魅力的なもので、少しご紹介します。耳納連山北麓地域では、戦後、食料難の時代から柿畑をはじめとした開墾が進み、多くの古墳が姿を消していきます。屋形古墳群も幾度と無く消滅の危機に直面します。珍敷塚古墳は江戸時代にはほとんど墳丘は破壊されたと考えられ、さらに近年の宅地造成の整地作業により露出した壁画さえも消滅しかけます。しかし、たまたま目にした通行人の通報によって守られることとなりました。原古墳は墓石として利用するために奥壁を一度抜き取られたものの、障りがあったために元に戻され、そのまま保存されています。鳥船塚古墳は一度は調査されたものの、畑にするためにほとんど壊され、壁画の描かれた奥壁2石だけが残されています。

当時、この地域の開墾を進めていた人が、古墳の破壊をとがめた郷土史家に「ああたちや、おどんに飯ば食わしてくるとな」と言い放ったそうです。人は生業がなければ生きてはいけません。生きていくために史跡を破壊した人々、地域の財産として史跡を保存しようとした人々、どちらも間違いではないでしょう。屋形古墳群は、生業と史跡保存の間で揺れながら、「古墳」としての個性を一部失いつつも、その姿で史跡を守っていくことの大切さや難しさを物語っています。開墾によって多くの古墳は壊されましたが、開墾によって柿を代表とする果樹などの地域の特産品を得たことも事実です。屋形古墳群の

のうち、古畑古墳だけは墳丘と石室が完全に保存された古墳で、現在は周りが柿畑となっています。開墾を象徴する柿と古墳が共存する姿は人々の生業と史跡の保存との関わりを感じさせてくれます。

さて、古墳の学術的価値としても、地域の歴史を語る財産としても魅力的な屋形古墳群ですが、これを後世まで守り伝えるために現在史跡整備が進められています。屋形古墳群整備には基本理念があります。それは「古の芸術が運ぶ“想い”かえることなく未来につなぐ」です。この理念の「想い」とは、壁画を描いた当時の人々の「想い」であるとともに、破壊を含む地域の生業と共に歩んできた人々の「想い」でもあります。その為、屋形

古墳群では古墳時代の姿を取り戻すいわゆる「復元」整備は行いません。現在保存されている壁画の姿を変えることなく、また、破壊されてきた歴史をも変えることなく未来に伝えようという理念を表しています。平成31年度から古墳本体の周辺から整備を始め、令和3年5月には、周辺散策の拠点となる「ガイダンス広場」が完成しました。令和4年度からは老朽化が進む現在の保存庫や、壁画の保存環境を良くするための古墳本体の整備工事が始まります。この古墳の「整備」もやがて「歴史」となります。ぜひ皆さんにも、屋形古墳群の「歴史」を見に行ってくださいと思います。



① 古畑古墳



② 鳥船塚古墳



③ 原古墳



④ 珍敷塚古墳



屋形古墳群 全景航空写真



⑤ 屋形古墳群ガイダンス広場